

夢・笑顔・輝けみんなの町



第8回子どもが活躍する町 三十分冲刺2013

報告書

目 次

はじめに	1
ミニたまゆりとは？ ミニたまゆりの沿革	2
第6回ミニたまゆりの概要	3
第6回ミニたまゆりのルール	4
ミニたまゆりの通貨「ユリー」	5
各グループの紹介	6
公共グループの報告	7
制作グループの報告	8
遊びグループの報告	9
食事グループの報告	10
イベントグループの報告	11
模擬裁判・市議会の報告	12
川崎市市長の訪問	13
協賛企業・団体のブース	14
子ども会議とは	15
第1回子ども会議	16
第2回子ども会議	17
第3回子ども会議	18
第4回子ども会議	19
第8回ミニたまゆり運営組織	20
子ども市長の仕事・子ども市長インタビュー	21
アンケート集計結果（子ども）	22
アンケート集計結果（保護者）	24
アンケート結果（学生）	26
福祉マインド実践講座とは	28
地域交流センターとは	29

はじめに

私が、はじめて「子どもの町」について知ったのは、2005年の夏でした。その年の11月に、数人の先生と学生で立ち上げた「子どもが作る町ミニたまゆり」は、教員も学生も、手探りの状態で始めたイベントでした。スタッフの経験不足や様々な不備などで、今思うと至らぬことが多い不完全なイベントだったと思います。それでも、来場してくれた子どもたちは楽しそうにイベントに参加してくれました。その子どもたちの笑顔や、私たちが考えるミニたまゆりの趣旨を子どもたちが理解してくれた時の感動を忘れられず、今までこのイベントを続けてこれたのだと思います。

初年度は1日の参加者200人強という小さなイベントでしたが、二日で3000人以上の参加者が集まり、運営スタッフも約300人以上とその規模は年々大きくなってきています。参加者からは、今年も楽しみにしていましたという声を掛けてもらう事が多く、地域に定着した大学の恒例行事に成長したと感じています。

大学が、ミニたまゆりを手掛けている目的は、大きく分けて2つあります。1つ目は、大学周辺に住む子どもたちへの地域貢献です。参加する子どもたちの声に耳を傾けると、「今年もミニたまゆりを楽しみにしていた」「年に1回ではなく、毎月開催して欲しい」などミニたまゆりに対するポジティブな感想が数多く聞かれます。保護者の感想として、「子どもの頑張る姿に驚きました」「仕事やお金の大切さを理解してくれたようです」といった感想がありミニたまゆりの活動が、地域の人々に良いイメージで受け入れられている事が判ります。また、ミニたまゆりの経験から、「お金の大切さを知った」「税金の使い道について家族で話をした」などの意見が寄せられており、子どもたちに社会の仕組みについて知ってもらう良いチャンスになっていると思われれます。

2つ目の目的は参加する大学生への教育活動です。実行委員の学生を中心として運営されるミニたまゆりの活動は、学生の目的意識・自分で考え行動する力・コミュニケーション能力を養う上で非常に優れた教材になっていると考えています。事実、実行委員として参加してくれた学生の成長は目覚ましく、最初は言われた事しかできなかった学生が、自ら何をすべきかを考え・判断し・行動する事ができるようになりました。

上記の目的を達成するために、実行委員・大学スタッフ・地域の協力者など、多くの方々の協力を得てきました。今回のミニたまゆりが成功に終わったのも、これら協力者の1年間の活動の成果です。最後になりましたが、ご尽力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

田園調布学園大学
ミニたまゆり実行委員会 教職員代表
番匠 一雅

ミニたまゆりの沿革

第1回 2005年11月

学園祭と同時開催

酒井ゼミの学生と数人の教員で運営
2日間で500人の参加

第2回 2006年8月

4日間で2000人の来場者
消防署・警察署・地域通貨たま・市民
プールなどの協力を得る

第3回 2008年3月

3日間で3000人の来場者
川崎市阿部市長が視察に訪れる以後毎
年ミニたまゆりに参加している

第4回 2009年2月

2日間で2000人の来場者
地域福祉学科1年の必修行事となる
川崎FMによるラジオPRを開始

第5回 2010年2月

地域交流センターが設立
同センターの担当行事および人間福祉
学部1年の必修授業となる
前日に大子ども会議を開催

第6回 2011年2月

市議会が開催され市民の声から町の公
約が決まる
模擬裁判が開催される
テレビ神奈川で特集が放映される

第7回 2012年2月

2日間で3000人の来場者
黒岩神奈川県知事が視察に訪れる
プロ声優・アナウンサーの指導による
声優・テレビ局の仕事を追加
大人ユリーの販売

第8回 2013年2月

ANA航空教室・遊びの森など協賛企業
のブースを開設
エコ・バザーを開催



ミニたまゆりとは？

「ミニたまゆり」はドイツのミニ・ミュンヘン子どものまちを参考に、川崎市麻生区にある田園調布学園大学が地域の子どものために開催するイベントです。ミニたまゆりに参加した子どもたちは、自分たちの力で町を運営します。町には、市役所・銀行などの公共施設、様々な製品を製作する工場や食事を提供するお店、ボーリング・射的などのゲームを楽しむための娯楽施設など様々なお店（仕事）が用意されており、子どもたちは自分の好きなお店で仕事に従事します。仕事を体験した子どもたちにはお給料が支払われ、税金を徴収し残ったお金で、買い物・食事・ゲームに参加するといったサービスを受けることができます。子どもたちは、このような町作り体験を通して労働の喜び、お金の大切さなど、社会のしくみを楽しみながら学びます。「たまゆり」の名称は、本学の学生がよく利用する新百合ヶ丘駅とたまプラーザ駅の名前から名付けられた

ミニたまゆりの成り立ち

福祉の専門大学として開学した田園調布学園大学の酒井教授がゼミナール活動の延長として2005年11月に学園祭のイベントとして開催したのが、ミニたまゆりの始まりでした。2005年2月に酒井先生はドイツミュンヘン市で開催されているミニ・ミュンヘンの活動を知り、深く感銘を受け、この活動を大学で展開する事でプロジェクトマネジメントの学習教材として学生への教育効果が期待できると考えるようになりました。その考えを実践するために何人かの教員の協力者を得て小規模ながらイベントを実現させることに成功しました。



第8回 ミニたまゆりの概要

開催期間	平成25年2月10日(日)・11日(月・祝)
開催時間	10:00~16:00
場 所	田園調布学園大学 3・4・5号館
対象年齢	5~15歳(小学校未就学児は付添いが必要)
参加費用	300円(二日間有効)
来場者数	のべ3300人
テーマ	夢・笑顔・輝けみんなの町『ミニたまゆり』

子ども会議の概要

第1回 10月27日	仲間作りゲーム・仕事を考える・キャッチフレーズの作成
第2回 11月24日	市長選挙・町のルールを考える・仕事の内容を考える
第3回 12月15日	ユリーのデザインを考える・看板作成・在庫作成
第4回 1月26日	ミニミニたまゆり(リハーサル)

ミニたまゆりのキャラクター

ミニたまゆりを応援してくる4人のキャラクターミニたまゆりを盛り上げるために様々なシーンで活躍してくれます。

ミニ太君 9才

元気な男の子
正義感が強いが、たまに暴走
する事も・・・
少しオッチョコチョイ



マユリちゃん 11才

おしゃれ大好き女の子
しっかり者のお姉さん
ミニ太君のブレーキ役



ブラック

子どもの町で悪事を繰り返す
困った奴。いつもレッドに追
いかけている。時にはエ
スカレートして裁判に発展す
る事も・・・



レッド

ミニたまゆりの平和を守る正義
の味方。いたずら好きのブラッ
クをいつも追いかけている。



ミニたまゆりのルール

<p>仕事をさがす 職業案内所で仕事と働く時間を決めます。市民カードに時間を書いてもらい、お仕事カードを持ってお店に行きます。</p> 	<p>仕事をはじめる 仕事を始める前に、市民カードを店長に渡すのを忘れないでね。遅刻をすると給料が減ります。</p> 	<p>仕事をやめる 終わる時間になったら市民カードにハンコをもらいましょう。</p> 
<p>お仕事カードをかえす 仕事が終わったら10分以内にお仕事カード返却所にお仕事カードを返してください。カードを返さないと給料がもらえません。</p> 	<p>給料をもらう 仕事が終わったら銀行で働いた分のコリーを受取ります。30分働くと4コリー支払われます。</p> 	<p>税金を納める コリーをもらったから、税務署に行って税金を納めましょう。税率は50%です。</p> 
<p>コリーを使う もらったコリーで食事をしたりゲームを楽しみましょう。</p> 	<p>ミニたまゆりの仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. もらえるお給料は30分4コリー 2. 給料の半分を税金として納める 3. 1つの仕事は120分まで働けます 4. 困った事は大人スタッフに相談する <p>集めた税金で公共で働いた人への給料が支払われます</p>	<p>子どもの町でやってはいけない事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 買ったものを他の人に売らない 2. コリーの貸し借りはしない 3. ゴミのポイ捨てはしない 4. けんかをしない 5. 階段や廊下を走らない 6. 食べながら歩かない

ゆめ えがお かがや まち
~夢・笑顔・輝けみんなの町~ **子どもがっくろ町ミニたまゆり**

5号館

2F: ストラックアウト、本部、選びの森制作【521】、選びの森ダンス、手品【522】

1F: 【カフェテリア】おとな・学生休憩所、図書館、【福祉考別】福祉工房（ストローホルダー）

立入禁止

4号館

紙ビーズ、サングラス、シュシュ、折り紙、ミサンガ、ブーメラン、プラバン、お面

小物入れ、しおり、ちぎりエコバック、びゅんびゅんゴマ糸電話、ぬり絵、まんが、パズル

4F: 販売店、手話、紙芝居、【444】、【443】、【441 講堂】模擬裁判市議会、【442】ANA 航空教室

3F: 市役所、警察インフォメーションセンター、【436】カード追加工務店、【435】銀行、【434】税務署、【433】迷路、【431】ミニたまゆり説明会場、【432】職業案内所 ANA 整理券配布

1F: 紙すき、【音楽スタジオ】テレビ局、声優、【表現スタジオ】音楽演奏

ヨーヨーつり、1円玉落とし、スーパーボールすくい

〇×クイズ、ピンゴ大会、じゃんけん大会、宝くじ、ステージ発表

B1: 清掃局、【食堂】おとな入場券売り場 非常食体験（無料）パン屋（有料販売）

クレープ、ケーキ、ドーナツ、フルーツポンチ、お絵かきエビせんべい、練菓子、飲み物、駄菓子、ポップコーン、カレー、うどん、中華まん、ナゲット、トン汁、フランクフルト、フライドポテト、焼きそば

おとしものは、4号館3階の市役所まで届けてください。

大人の方は4号館B1階 食堂で食事していただくことができます。(有料)

けが、病気、授乳などは3号館2階の保健室へ

【東門駐車場】
10日 10:30~12:30 起震車、消防車体験
11日 10:30~12:30 バトカー、白バイ乗車体験

B1階から5号館にいきます

★お知らせ★
使い切れなかったコリーは3号館4階の市民登録所で下記のと交換できます。交換は両日とも15時から。数に限りがあります。

地域通貨タマ（2コリー→200タマまで）
ヨネティプール券（3コリー→1枚まで）
エコ・バザー（子ども用品）

3号館

4F: 【342】市民登録、【343】市民登録 たま・プール券引換 エコ・バザー

3F: 【332】モグラたたき 輪投げ、射的、【333】チョコつまみ 釣あて、缶つま

【4号館2F ラウンジ】ボーリング、魚釣り、ネイルサロン

ミニたまゆりの通貨「ユリー」

ミニたまゆりの町の中で買い物をするには、「ユリー」という単位の地域通貨を利用します。1時間お仕事をすると、銀行で8ユリーの給料が支払われます。銀行の隣にある税務署で税金として4ユリーを納めた後、残った4ユリーを買い物や遊びに使います。

今年のユリーのデザインは、子ども会議の参加者から募集したイラストを元に作成しています。子ども達の応募作品から、次の3つの作品が選ばれ、これらの作品を元に大学生の実行委員がユリーのデザインを作成しました。



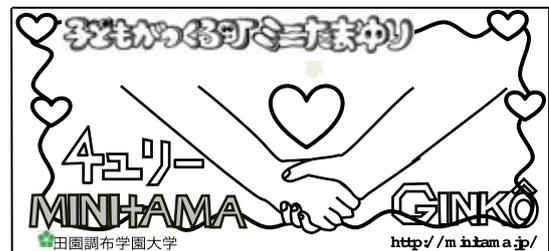
来田 梢ちゃん(小4)



山本 莉子ちゃん(小4)



水越 彩ちゃん(小4)



ミニたまゆりの税率について

ミニたまゆりの税率は、なんと50%！参加者のアンケートを見ると、多くの方々から税金が高すぎるとの意見をいただいています。しかし、第1回目から1時間働いて手元に残るお金が4ユリーという金額は一切変わっていません。第1回のミニたまゆりでは、1時間6ユリーと公表していましたが、実際に銀行で支払われる金額は2ユリーの税金を差し引いた4ユリーでした。第2回目では税金を納めるリアルな体験をさせたいという事で、1時間6ユリーを支払い、税務署で33%の税金(2ユリー)を納めるようにしましたが、小学校低学年には33%の税金を計算するのが難しく、税務署でのトラブルが発生しました。これらのトラブルを解消するために、1時間8ユリーの給与を支払い、その半分を税務署に収めるという今の方法が定着したのです。

大人ユリーについて

参加児童の保護者の方々から、「お客さんが少なくてかわいそう。お客さんになってあげたい」「子どもから食事を購入して食べてみたい」といった意見寄せられるようになり、保護者の参加料として500円を支払っていただき、大人専用のユリーを5ユリー分お渡しする制度を導入しました。大人ユリーは、子どもは使えない他、ビンゴ大会やエコバザーに利用する事はできません。



各グループの紹介

グループ名	内 容	店舗名
<p>公共</p> 	<p>町の住民になるための市民登録や職業案内・銀行などの市民の窓口になる施設が用意されています。その他にも、市役所・警察・清掃局など市民の生活を支え、暮らしやすい町を作るための仕事がたくさん用意されています。公共の仕事で支払われる給料は、税務署で集めた税金から支払われます。</p>	<p>市民登録・職業案内・カード返却・銀行・税務署・テレビ局・新聞社・市役所・工務店・清掃局・警察・インフォメーションセンター・図書館・声優体験・アナウンサー体験・両替屋</p>
<p>製作</p> 	<p>子ども達の力でプラバンやパズル・ミサンガなどの小物を製作します。製作物は隣に併設された販売所で販売されます。自分で作成した小物を持って帰る事は出来ませんが、販売所で自分の作品をユリーで購入することができます。</p>	<p>紙すき・小物入れ・しおり・パズル・ちぎりえ・エコバック・糸電話・ぬり絵・びゅんびゅんゴマ・紙ビーズ・サングラス・ミサンガ・ブーメラン・プラバン・お面・名刺・シュシュ・福祉考房・販売店</p>
<p>遊び</p> 	<p>自分で稼いだユリーを使って、色々な遊びが体験できる店舗がそろっています。ゲームなどで遊んだあとは、その得点に応じて駄菓子などの景品がもらえます。射的の鉄砲や輪投げの輪・魚釣りの魚のイラストなど、店舗で必要な部材は、子どもたちが自分の力で用意します。</p>	<p>ヨーヨー釣り・1円玉落とし・スーパーボールすくい・魚釣り・ボーリング・迷路・モグラたたき・輪投げ・射的・チョコつまみ・的あて・缶つま・ストラックアウト・ネイルサロン</p>
<p>食事・デザート</p> 	<p>子ども達が用意した食事やデザートを販売する店舗が多数用意されています。衛生面を考え、多くの店舗では、学生食堂で調理済みの食材を子どもが盛り付けしてお客さんに提供しています。また、唯一保護者の方が楽しめるお店としてパン屋を用意し、菓子パンなどを100円で販売しました。</p>	<p>ポップコーン・カレー・うどん・中華まん・トン汁・フライドポテト・フランクフルト・焼そば・喫茶店・フルーツポンチ・綿菓子・飲み物・クレープ・ケーキ・ドーナツ・駄菓子・非常食体験・パン屋</p>
<p>イベント</p> 	<p>食堂に設置されたステージで定期的に行われるゲームや発表会などのイベントです。今年度の新しいイベントとして全日空（ANA）主催のANA航空教室や株式会社遊びの森主催のダンス教室が開催されました。また、余ったユリーを有効的に消費するための仕組みとして、エコバザーを開催しました数多くの子供用お品が寄付され、集まった商品はユリーで販売されました。</p>	<p>音楽演奏・模擬裁判・市議会・手話・紙芝居・じゃんけん大会・O×クイズ・ビンゴ大会・宝くじ・起震車・パトカー乗車体験・ANA航空教室・ダンス教室・エコバザー・</p>

公共グループの報告 担当：三浦 達也

グループ長の感想

公共グループは、子どもが町の生活をする重要な拠点となります子どもたちの混乱を招かないように、私たち学生がしっかりと連携し、できるだけ判りやすいよう配慮しました。そのおかげで、子どもたちは戸惑いながらも、やりがいを感じながら仕事をしていました。

公共の仕事は、銀行や税務署において、大きなお金（ユリー）が行き交います高学年を中心にお金の管理や計算を任せようでしたが、楽しそうにユリーを扱っている子どもたちの笑顔が印象に残りました。



公共グループのお仕事一覧

市民登録	登録料金（300円）を集める	テレビ局	取材したビデオを編集し放映する
職業案内	仕事を紹介する	新聞社	取材した記事や写真を編集し新聞を発行する
インフォメーションセンター	道案内や校内放送を担当する	声優体験	プロの声優の指導のもと、アニメに音声を吹き込む
銀行	子どもに給与（ユリー）を支払う	清掃局	町をきれいにする
税務署	給与の50%を税金として支払う	図書館	保護者向け・子ども向けの本や雑誌を用意
市役所	様々な市民の要望に応える	警察署	落とし物や迷子の対応 町の安全を守る

警察署

男の子に大変人気がある仕事です。廊下を走っている子どもを注意したり、落とし物や迷子の対応など町の平和のためによく働いてくれました。今年は麻生警察の協力のもと、パトカーや白バイの乗車体験も行われました。



声優体験

プロの声優の指導のもとアニメーションに音声を吹き込む仕事を体験します。何度もリハーサルを行って作成したアニメーションは、新聞社に設置された大型スクリーンに投影され、来場者に見てもらえます。



職業案内

仕事を行いたい子どもは、職業案内で好きな仕事を選びます。今年は、来場者が多く職業案内所が大混乱しました。二日目は、机で導線を作るなどして改善したおかげで、多少改善されましたが、来年度は部屋を広くするなどの対策が必要かもしれません。



制作グループの報告 担当：鮫島 愛佳

グループ長の感想

制作グループでは、販売するための商品を作ります。初めに大学生が子ども達に作り方を教えて、デザインなどは子ども達がしたいようにします。子どもたちは好きな絵を描いてとても個性的な作品を作ってくれました。リボンなど飾りをたくさん付けて可愛い物を作ってくれます。子ども達は真剣に作業をしていて、出来上がった時の笑顔がとてもキラキラしていました。その姿を見て保護者も思わず写真を撮っていて、子どもと保護者にありがとうの言葉を頂く事も多く、すごく楽しかったです。



制作グループのお仕事一覧

福祉考房	傷害者むけのストローフォルダーを作る	プラバン	プラバンに絵を描いてオープンで焼く
ミサンガ	紐を結んでミサンガを作る	紙ビーズ	広告などを切って丸める
糸電話	紙コップに糸を通して作る	サングラス	厚紙を好きな形に切って、セロハンをはる
小物入れ	牛乳パックに飾りつけをする	ブーメラン	厚紙を型に沿って切り、好きな絵を描く
パズル	牛乳パックを切ってピースを作る	しおり	好きな絵を描き、穴に紐を通す
シュシュ	毛糸を使い髪どめを作る	エコバック	紙を折ってバッグを作る
紙すき	材料が解けた水をすくってはがきを作る	販売店	お店で作ったものを売る

販売店

制作グループで作成された商品は、すべて販売店に並べられユニーで販売されます。自分で作成した商品が欲しい場合は、販売店に取り置きしてもらいます。シュシュや紙すきで作成したハガキが人気があり、よく売れていました。



あそびの森（制作）

協賛企業のあそびの森（アメイジングワールド）のスタッフの方々を中心に子ども達に工作を教えました。事前の準備が大変だったのですが、子どもたちが作った作品の出来はすばらしく、参加した子どもたちは大喜びでした。



紙すき

川崎市のリサイクルセンターのスタッフが機材の用意や子どもへの指導をしてくれました。落ち葉や色紙を重ねて作った作品はどれも個性的で素敵なハガキがたくさん出来上がりました。



遊びグループの報告 担当：鈴木 翔貴

グループ長の感想

遊びのグループで大変だったのは、景品のお菓子の調達です。ゲームの内容を簡単にすると、1度に何個も景品を持っていく子どもがいて用意していた景品がなくなってしまうので、何回も調達に行く事になりました。小学1年生から中学生まで色んな子どもたちが参加しているので、程よいゲームの難易度に調整するのが難しかったです。子どもたちは、しっかりと接客をしていて、お客さんと一緒に遊ぶような感覚でボーリングの倒れたピンを数えたり、魚釣りで釣れた景品をあげたりしていました。



遊びグループのお仕事一覧

ヨーヨー釣り	縁日でおなじみのゲーム	モグラたたき	穴から出てくる人形をハンマーで叩く
スーパーボールすくい	スーパーボールをポイですくう	輪投げ	ペットボトルの的に輪を投げ入れる
魚釣り	制限時間内に何匹の魚を釣り上げるか	射的	手作りの割り箸鉄砲で輪ゴムを飛ばす
ネイルサロン	爪にマニキュアやラメを塗ってあげる	チョコつまみ	マーブルチョコを箸でつかんで皿に移す
ボーリング	ペットボトルのピンをボールで倒す	缶つまみ	ジュースの缶を自分の身長より高く積む
迷路	段ボールで作った迷路から脱出	ストラックアウト	コントロールを競うおなじみのゲーム

モグラたたき

穴から出てくるモグラをピコピコハンマーでたたくゲーム。モグラ役は両手に人形をつけた店員さん。タイミングよく人形を穴から突き出して頑張っていました。



ネイルサロン

お客さんに塗りたいマニキュアやラメを決めてもらい、きれいに塗ってあげるお仕事をしてもらいました。女の子に人気があり、仕事が終わった後にお客さんとしてネイルをしにきている子どもも多く見られました。



ボーリング

ペットボトルのピンを並べ、ボールを転がして倒します。倒れた本数で景品の駄菓子の数が変わりますが、上級生には簡単なのでペットボトルに水を入れて、倒れにくくして調整しました。



食事グループの報告 担当：松永 奈美

グループ長の感想

食事のグループでは、衛生面を第一考え運営しました。子どもたちには、手袋・バンダナ・エプロン・マスクを着用してもらい手を消毒します。今年は「ミニヨコハマ」から飾り付けセットをお借りしたので、飲み物などを可愛くする事ができました。昨年度の経験を生かし、今年はブレーカーが落ちないように予め配線などに注意し、無事電源が落ちる事なく運営することが出来ました。また、1日目のアンケートで食品の値段がわかりづらいとの意見が書かれていたので、2日間には壁やテーブルに料金表を設置し、会議にて値段を下げるということを行いました。



食事グループのお仕事一覧

非常食体験	アルファ米にお湯を注いで提供（無料）	ケーキ	ロールケーキを輪切りにしてトッピング
ポップコーン	機械で作ったポップコーンを販売	フライドポテト	調理済みのポテトを容器に盛りつける
たこ焼き	冷凍たこ焼きを電子レンジで調理	フランクフルト	ホットプレートで調理する
カレー	ご飯とカレーをお皿に盛りつける	焼きそば	調理済みの焼きそばをパックにつめる
綿菓子	専用の機械で綿菓子を作り販売	クレープ	市販のクレープ生地にフルーツをトッピング
中華まん	冷凍の中華まんを電子レンジで調理	飲み物	ジュースを紙コップに注ぎ販売する

ケーキ

市販のロールケーキを輪切りにして紙皿に寝かせて、上からチョコソースやフルーツソースなどお客の注文にしたがいトッピングします。売り子をするよりも、トッピングをする方が人気がありました。



綿菓子

子どもたちに大変人気がある仕事で、仕事をする人も・お客さんもたくさん訪れます。本物の綿飴機で縁日の屋台と同じように作ります。ざらめの分量や形を整えるなど、難しいところもありましたが、子どもたちは上手に作れるようになりました。

豚汁

調理の難しさと衛生面から、学生食堂のスタッフが調理した豚汁をコンロで暖め直しお客さんに提供しています。値段が高かったのか、最初あまり売れませんでした。容器を小さくして値段を下げる事で完売しました。



イベントグループの報告 担当：門田 明里紗

グループ長の感想

子どもたちの町を盛りあげるために、たくさんのイベントを用意しました。イベントに参加した子どもたちは、お菓子などの景品をもらうと、とても喜んでいました。宝くじなど当選者にユリーを直接支払うイベントでは、高額なユリーを子どもに渡すのは教育上良くないと考え、金額の設定に悩みましたが、実際の宝くじなどを参考に、売り上げ金額の一部を賞金にするという事で大きなトラブルもなく子どもたちも喜んでいました。全体を通して、大成功なイベントだったと思います



じゃんけん大会	じゃんけんで勝ち残った子どもに菓子をプレゼント
〇×クイズ	クイズのお題をスタッフが発表し〇×に立って分かれてもらう
ビンゴ大会	ビンゴになった人に、豪華賞品のおやつをプレゼント
宝くじ	市役所で販売した宝くじの抽選会
手話発表会	音楽に合わせて子どもたちが手話の歌を発表します
あそびの森（ダンス）	音楽に合わせてダンスを披露。プリニーと一緒に踊りましょう
音楽演奏	簡単な打楽器を使って音楽演奏。プロの演奏家が指導します
起震車乗車体験	荷台のキッチンで震度7の揺れを体験できる起震車

音楽演奏

プロミュージシャンが子どもたちに楽器演奏を指導します。簡単な打楽器を中心に、音楽に合わせて伴奏の練習をしますが、30分もすると子どもたちはとても上手に演奏できるようになります。

〇×クイズ

スタッフが問題を出題し、床にテープで作った〇と×の領域に子どもたちに分かれてもらい正解数を競うイベントを行いました。はじめは、子どもたちが中々集まりませんでした。町のマスコットキャラクターのブラックとレッドが呼び込みをすると、子どもたちがたくさん集まりイベントが盛り上がりました。クイズ終了後、正解数の多い順に10人の子どもたちに景品としてお菓子を差し上げました。



あそびの森（ダンス）

協賛企業の株式会社あそびの森（アメイジングワールド）のスタッフが子どもたちにダンスを指導してくれました。プリニーという着ぐるみも用意していただき、学生が中に入り、子どもたちと一緒にステージでダンスを踊りました。ダンスの練習では、子ども達でアレンジを加え練習をして、本番は上手に踊っていました。子ども達がすごく楽しそうで、笑顔があふれていました。

川崎市市長の訪問 担当：番匠 一雅

川崎市 阿部孝夫市長のミニたまゆり訪問

第3回のミニたまゆりにおいて田園調布学園大学の所在地である川崎市の阿部孝夫市長にミニたまゆりへの視察をお誘いしたところ快く了承していただき、それ以来毎年ミニたまゆりに訪問していただいています

子ども市長の案内で子どもの町を視察した阿部市長は、ANA航空教室の見学を行いました。本物のパイロットやCA・整備士の方々の話を聞いた後、子ども市長と共に記念撮影。その後、子ども放送局に出演したり、子ども新聞記者からインタビューを受けたりと大忙しでした。

子どもの町を良くするための会議が行われていた市議会の会場では、阿部市長が飛び入り参加することになり、子どもたちに、市議会の仕組みや川崎市の現状についてお話を聞かせてくれました。

最後に、子どもたちが阿部市長に伺ったインタビュー記事が新聞に掲載され、阿部市長にお土産としてプレゼントされました。



たまゆり新聞 平成25年2月10日 日曜日 発行 第4号

たまゆり新聞

たまゆり新聞 2013年
平日一冊 発行部数
川崎市内各児童館・公民館
3,451 田園調布学園大学
たまゆり新聞社

担当
おのぞうゆま
いしのたかあき
むらいあづさ

市長の良いこと大変なこと

☆市長になって良かったこと

- ・多くの市民の声を聞ける
- ・難しいところをみんなで作ることが出来る

☆大変なこと

- ・休みがない

☆嬉しいこと

- ・今まで勉強したことを仕事にいかせる

☆頑張ったこと

- ・仕事の改革(無駄をなくすこと)
- ☆解決できなかったこと
- ・地下鉄のこと
- ☆難しかったこと
- ・港の会社の破産の手続き



今年も阿部市長がお越しくださいました！

模擬裁判・市議会の報告 担当：渡邊 あかね

グループ長の感想

模擬裁判

裁判の知識のない子どもたちと一緒に裁判を行う模擬裁判は、ミニたまゆりの中でも難しいとされるイベントの1つです。そのため、裁判官や検察官、弁護士などの裁判を進めていく役は大学生がおこない、子どもたちには裁判員や傍聴人として裁判に参加してもらうことにしました。

今回の事件は「器物破損」で、学校でブラックがレッドのおもちゃを壊したというものにし、少しでも子どもたちに興味を持ってもらうために身近に起こるような事件づくりを心がけました。おもちゃを壊した人が誰なのか、レッドがおもちゃをなぜ持ってきたのかなどの細かい部分は裁判の中で語らず、子どもたちが考えた質問によって分かるようにし、有罪か無罪か子どもたちの考え次第で変わってしまうようにしました。ミニたまゆり開催の2日間同じ内容で行われ、1日目が無罪、2日目が有罪と二日間とも違う結果ができました。2日間を通して多くの子どもたちが参加し、裁判について学び、自分の意見を述べ、人の意見を聞いて考え、真剣に取り組んでいました。今回の模擬裁判では、子どもたちが裁判に対し興味を持ってただけでなく、模擬裁判に参加することで裁判について知る事ができ、自分の考えや意見の重要性を実感してもらえたようでした。そして、子どもたちは、私たち学生の想像を遥かに超えた模擬裁判を作り上げてくれました。



市議会

まず、川崎市議会のDVD「市議会のしくみ」や「市議会キッズページ」の資料を使って、「市議会」のしくみや市議会議員の仕事について簡単に学習しました。その後、子ども市長や一般の参加者（当日希望の市議会議員）と共に、「夢、笑顔、輝けみんなの町」というミニたまゆりのキャッチフレーズを具体化するアイデアを考えました。

将来の夢につながるために、いろんな仕事を体験してみるのがいいのではないかと、それには、仕事をまわるスタンプリナーをしたらどうか、などのアイデアが出ました。また、初日には、川崎市の阿部市長が参加し、子どもたちと「夢」についてお話をしました。

二日目には、少し「まち」を視察し、まちのいいところや悪いところ（問題点）を視察し、「市民」にインタビューをしてから話し合いをしました。低年齢の警察が食べ歩きや走ってしまう人を注意しても言う事を聞いてくれない市民がいるため、名前を聞いてメモするのがいいのではなか、あるいは、ザワザワしていると校内放送が聞き取りづらいため、放送が流れたら全員静かにするルールにした方がいいのではないかと、といった様々な案が出されました。

協賛企業・団体のブース

今年度で8回目となるミニたまゆり。年々協力していただく団体・企業が増えています。今年度、初めての試みとして会場の一部を協賛企業に開放して、そこで子どもたちのために独自のイベントを開催していただきました。1つは、全日本空輸（ANA）による、ANA航空教室。もう一つは、株式会社あそびの森による、制作体験とダンス教室です。また、本学の同窓会である、「なでしこ同窓会」のOB・OGの皆様の協力で、家庭で不要となった子ども用品を回収して、ユリーで販売するエコバザーを開催しました。その他にも、麻生警察署・麻生消防署の協力により、パトカー・白バイ・消防車・起震車の乗車体験などが開催されました。



ANA高級教室

パイロット・CAの方々が航空会社の仕事を解説しながら体験させてもらえるイベント



あそびの森（制作）・あそびの森（ダンス）

子どもたちと一緒に工作を作ったり、ダンスの練習をしてステージで発表をします



エコバザー

ご家庭の不要品を集め、ユリーで販売。



白バイ乗車体験

本物の白バイに乗って警察官と記念写真



子ども会議とは

「ミニたまゆり」の実現に向けて、毎年10月から月1回のペースで子どもたちを大学に招いて「子ども会議」を開催しています。子ども会議では、大学生や地域の大人スタッフが司会者となり、子どもたちと一緒に新しい町のルールやお店を考えたり、料理を作る練習やお店の接客の練習・イベントに必要なカンバンや飾り付けの作成といった準備を行います

毎回100人近くの子もたちが参加し、子ども独自の斬新なアイデアを発想してくれます

子ども会議に参加して、料理や接客の方法を覚えた子どもたちは、「ミニたまゆり」本番では、子どもたちのリーダーとして活躍し、自分たちが考えたルールや学んだ事を、別の子どもたちに指導します

子ども会議に参加すると、1日につき4コリーの報酬が支払われ、イベント当日は一般の児童より1時間早く会場に入ることができますこれは、子どもたちへの報酬という意味のほかに、オープン直後は町にコリーが流通していないので消費者が不在となり、店を開いてもお客が集まらないという問題や、オープン直前の店舗準備のための人材確保という意味を持っています



子ども会議の効果



毎回の子ども会議の中には必ずグループワークの時間が設けられています子どもたちに、議題を投げかけグループにわかれ議論し、そこで集まった意見は最後の発表の時間に子どもたちに発表してもらいます。子どもだけの集まりでは活発な意見が得られませんが、ファシリテーター役の学生がうまく誘導する事によって、子ども独自の自由な発想が生まれてゆきます。

発表会で良い意見が発言された場合、積極的に町の仕組みに取り入れ、次回の子も会議で町の決定事項として大きく取り上げ、子どもたちに周知します。この経験を繰り返す事で、子ども会議に参加する児童は、自分たちの考えが町づくりに繋がる事を理解し、ミニたまゆりを自分たちの力で作り上げているという実感を得られるのです。

子ども会議で決定した事項としては、町のキャッチフレーズである「夢・笑顔・輝けみんなのまち」やコリーのデザイン、新しい店舗のアイデアなどがあります

最後の子ども会議では、市長選挙を行い立候補者の中から10人の児童が子ども市長として選出されました



当日の状況

第一回こども会議は、良いお天気恵まれ幸先の良いスタートとなりました。第一回こども会議のアイスブレイクは、動物当てゲームを行いました。初めは、緊張気味だった子ども達も、「アイスブレイク」という名前の通り、だんだんと打ち解けていく様子がわかりました。グループワークは、「町で必要な仕事をたくさん出そうゲーム」と「ミニたまゆりのキャッチフレーズを考えようゲーム」の二つを行いました。数を多く出したグループには、賞品（お菓子）が渡され、子ども達もゲーム感覚で楽しい雰囲気となりました最後に宿題として、ユリーのデザインが出ましたその場でかく子どもたちもいて、今年のユリーのデザインも素敵になりそうだと思います

司会者の感想

会議が始まる前も、子どもたちと楽しくおしゃべりしている学生が多く、和やかな雰囲気でした。毎年来る子ども達は特に、知っている二年生のコアスタッフに話しかける姿なども見られました。先生のアドバイスのもと、アイスブレイク前にストレッチを行いました。伸びをしたり体を軽く動かしたりすることで、体もあたたまりました。動物当てゲームでは、子どもたちが率先してコミュニケーションを取り合っていたので良かったと思います。グループワークでは、子どもたちからたくさんのアイデアが出され、時間をオーバーするほどでした。司会者は、タイムキーパーの役目もあると思うので時間調整も大切だと思いました。子どもたちの中には、私たち以上にミニたまを知っている子どももいるので、コアスタッフはもちろん一般スタッフもミニたまの基礎知識の確認が必要だと思いました。とても、楽しく和やかな雰囲気、子ども達も積極的な子ばかりだったので、今後の会議にも期待が持てました。

第1回 こども会議

日時：2012年10月27日（土）

場所：341教室

目的：ミニたまゆりの説明
グループワーク



時間割

- ・アイスブレイクゲーム（仲間作り）
- ・ミニたまゆりの説明の上映・プリント配布
- ・町で必要な仕事をたくさん出そうゲーム
- ・ミニたまゆりのキャッチコピーを考えよう

宿題の説明

- ・ユリーのデザインを考える
- ・市長になりたい人は、その理由を考える



各グループで考えたキャッチフレーズ

グループ名	キャッチフレーズ
きつね	笑顔あふれるゆたかな町
うま	みんなで作る笑顔がいっぱい子どもの町
ねこ	みどりかがやく未来の町
しか	友達と協力しあって、みんなかがやくエコな町
うさぎ	みんなが明るく楽しい未来の町
いぬ	ゆめとえがおの子ども町
ヒヨコ	きれいでゆたかなみんなの町
カンガルー	笑顔つくろうしあわせの町
イルカ	夢・笑顔・輝けみんなの町 ミニたまゆり

当日の状況

当日は11月にしては暖かく、まだまだ半袖の子もいて楽しそうにはしゃいでいました。12:45に受け付けを開始して、受付が終了した子どもたちは、一般スタッフの学生がそれぞれのグループの教室に誘導し、13:20までに子ども、学生全員が教室にいることを確認して第2回子ども会議が開始しました

13:30からアイスブレイクで「ジェスチャーゲーム」をしましたその後、ミ『子ども市長』の選挙と、今年のミニたまゆりキャッチフレーズの投票を行い、立候補者がそれぞれ演説しました。

休憩をはさみ、14:25からこの日のメイン、「町のルールをたくさん出そう」・「仕事の内容を考えよう」を行い、最後に子ども市長の当選結果と、キャッチフレーズの発表をしました今年10人の子どもたちが市長に選ばれ、キャッチフレーズは、『夢・笑顔・輝けみんなの町』に決定しました。そのまま、次回第3回子ども会議についての連絡と宿題について子どもたちに伝えて第2回子ども会議は終了しました。

第2回 子ども会議

日時：2010年11月24日（土）
場所：341教室
目的：市長選挙・町のルールを考える



時間割
・アイスブレイクゲーム
・キャッチフレーズ投票
・市長選挙
・町のルールをたくさん出そうゲーム



宿題の説明
・ミニ太くんとマユリちゃんのイラストを考える

司会者の感想

子ども会議の司会をやって思ったことは、子供にわかりやすく説明をするのが難しく、ペースが乱れると子どもは素直に聞いてくれないことがわかりました。けれど、実況の時に子どもたちの真剣な姿勢を見ることが出来、そこに司会のやりがいを感じる事が出来ましたその姿勢を崩さないように、これからもミニたまゆりをがんばろうと思いました。

市長選挙

市長選挙では、立候補者の子どもたちに一人ずつ「どうして市長に立候補したのか?」「市長になったら、子どもの町をどんな町にしたいか」というテーマで演説をしてもらいました。選挙で選ばれた子ども市長は、皆やる気があり自分の意見をはっきり言える頼りがいのある子どもたちです。子ども会議終了後、会場に残ってもらい、今後の市長の仕事について説明を受けました。



当日の状況

当日は子どもたちも会議に慣れてきて、開始前からたくさんの楽しそうな顔を見ることができました。

12：45から受付だったのですが、受付前からとても多くの子どもたちが来ていていました。例年より多かつたらしく大変にぎやかでした。

13：00から子ども会議がスタートと同時にアイスブレイクゲーム（×ゲーム）をやりました。最初は子どもたちも大人しく静かだったのですが、三問目あたりからだんだんと盛り上がりを見せてくれました。その後、ミニたまゆりで使用するユリーのデザイン投票やグループワークとしてお店の準備をしました。お店の準備では自分が担当しているお店の他にも手伝いたいという、やる気の溢れている子どももたくさんいました。

15：20から次回のミニたまゆりで行うことの簡単な説明を行い16：00に解散、片付けを行い、第3回子ども会議は問題もなく、終了しました。

第3回 子ども会議

日時：2012年12月15日（土）

場所：341教室

目的：ユリーデザインの投票

看板作成

在庫作成

時間割

- ・アイスブレイクゲーム
- ・ユリーのデザイン投票
- ・グループワーク（お店の準備をする）
看板作成、エコバック、しおり、
ブーメラン、お面、糸電話、
小物入れ、紙ビーズなど

宿題の説明

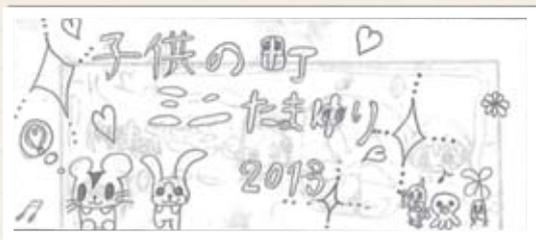
- ・川崎市長への質問



司会者の感想

今回のこども会議ではアイスブレイク、ユリーのデザイン投票、お店の準備をしましたどのコーナーにおいても子どもたちの積極的な姿が見受けられました。私が担当した×ゲームでは、子どもたちが元気よくゲームに参加をしてくれて、とてもやりがいがありました。大きなトラブルも無く、コアスタッフ・学生スタッフと参加した子どもたちも楽しそうにしているのが、印象に残っています。そして、子どもたちがミニたまゆりのことを私たちよりも多くのことを知っていて、初めて参加した私たちは驚いたと同時に、また次回も参加しようと思いました。

宿題として集まったユリーのデザインの例



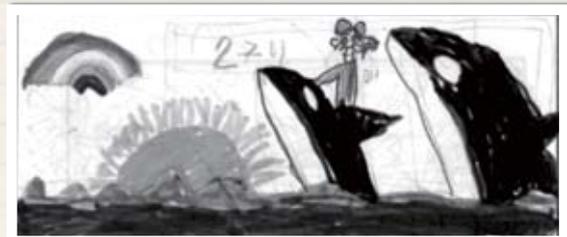
長谷川 彩（小5）



小出 理央（小3）



ひび ゆうな（小2）



ほしの さくこ（小1）

当日の状況

第4回の子ども会議では本番さながらのリハーサルを行う、ミニミニたまゆりが開催されました。受付を済ませた子ども達に名札、ユリー、アンケート用紙などを渡し宿題を回収子ども市長には別室で待機させてもらいました。

432教室に食品、遊び、公共、431教室に制作、販売に分けて、合計18種類の仕事を配置しました。子ども達には事前に10ユリー渡しており前半後半と別れて前半組は仕事 遊び後半組は逆の遊び仕事と役割を担当しました。

子ども市長の開始の合図でミニミニたまゆり開始前半後半の間に休憩を挟みました。ミニたま本番に向けて子ども達も熱心に作業を行っていました。その日には一般学生にも見学に来てもらいました。

第4回 子ども会議

日時：2011年1月15日（土）

場所：431教室・432教室

目的：ミニ・ミニたまゆり



司会者の感想

今回での反省点では、『食品の子ども達のマスク着用』『各ブースの物品の再確認』が挙げられます。マスクについては模擬であっても食品を扱うのでマスクは徹底するべきでした。物品の再確認は制作のブースで物が足りなく作業が遅れてしまった所もありました。今回の失敗を生かして来年度の成功に繋げていけたらいいなと思います。

ミニ・ミニたまゆりで行ったリハーサル内容

糸電話	販売店	駄菓子
しおり	射的	ナゲット
折り紙	ネイルサロン	ケーキ
ちぎり絵	輪投げ	ドーナツ
ミサンガ	1円玉落とし	フルーツポンチ
ビュンビュンコマ	缶つま	清掃局



子ども市長のお仕事

子ども市長のスケジュール



10:00 開会式でのテープカット



12:00 市議会への参加



13:00 川崎市阿部市長と会談



14:00 ANA航空教室の視察

その他にも、模擬裁判の裁判員や閉会式、子ども会議の司会など、多くの仕事に携わってもらいました

子ども市長インタビュー

村井美月市長（11才）



子ども市長をやって良かった事は、川崎市の市長とお会いしてお話してきたことです。町の中には色々な人がいて、色々な考え方があるのがわかりました。人の話を良く聞くことが大事だと学びました。

次のミニたまゆりで子ども市長をやる事ができたらルール違反を平気でする人が結構いたので、ルールを守ることの大切さをどうしたらわかってもらえるのか考えたいです。

石黒虎太郎市長（14才）



「ミニたまゆり」の市の仕事は、すごくやりがいがある仕事でした。イベント自体もとても楽しかったです。市議会など本格的な会議に参加するのは緊張しましたが、自分たちが決めたルールやイベントが翌日に徐々に実現されていくのを見て、自分たちの仕事は成功したなと感じました。

次のミニたまゆりに参加する事ができたら、その場にいるだけで幸せな気分になれるような、安全で楽しい町づくりがしたいと思います。

番匠将貴市長（8才）



市長の仕事で面白かったのは、本物の大人の市長に会えた事と、市議会で自分の意見を言えた事です。来年のミニたまゆりでも、絶対に子ども市長をやりたいとおもいます。

次のミニたまゆりで子ども市長になれば、面白いゲームや景品がもらえるようなイベントをもっともっと増やして、もっと楽しい町にしていきたいです。

第8回 ミニたまゆり運営組織

ミニたまゆりの協力者・協力団体

ミニたまゆり実行委員会コアスタッフ（約44名）・ミニたまゆり実行委員会一般スタッフ（65名）・学生ボランティア（133名）

本学の間人福祉学部1年生は福祉マインド実践講座の授業を通じてミニたまゆりへの参加が義務づけられている。また、ボランティア学生はその貢献度から、ミニたまゆり実行委員会一般スタッフとミニたまゆり実行委員会コアスタッフに分けられている。

大学教職員スタッフ（約50名）

大学教員と事務職員のスタッフ。主に学生のサポートと子どもたちの見守りや予算の管理・物品の購入などの裏方作業を行う。

子ども会議参加者350人・子ども市長10人

子ども会議に参加をして、新しい町のルールやお店を考えたり、料理を作る練習やお店の接客の練習・イベントに必要な看板や飾り付けの作成といった準備を行う。

なでしこ同窓会（エコバザー7人）

家庭で使わなくなった子ども用品を市民登録所で回収し、イベント後半でユリーで販売するイベントを開催。

地域住民ボランティア（市民登録84人）

ミニたまゆり当日に、各お店の見守りや、公共施設（市民登録所・銀行・税務署など）の仕事のサポートを担当していただきました。

川崎市リサイクルセンター（紙すき）

川崎市リサイクルセンターの方とスタッフ学生が子どもたちに紙すきの方法を指導しながら、紙すきを体験する。

スワンペーカーリー（パン屋・豆腐屋）

大人向けに、菓子パンや豆腐を使ったデザートを現金で販売。

麻生総合高校（新聞社・テレビ局 約20人）

麻生総合高校の生徒がボランティアとして参加。新聞社とテレビ局で働く子どもたちが撮影した写真やインタビュー記事を麻生高校の生徒がパソコンを使って編集し新聞やテレビ番組を作成。

地域通貨たま運営委員会・ヨネッティー王禅寺（たま・プール券）

ミニたまゆりで余ったユリーは地域通貨「たま」やヨネッティー王禅寺のプール券と交換することができます。地域通貨「たま」とは、川崎市多摩区で100たま100円として生花店や飲食店、衣料店などで買い物の際に代金の一部を支払うことができる金券。

全日本空輸・株式会社あそびの森（ANA航空教室・ダンス教室・制作）

会場の一部を協賛企業へ開放し独自の企画を運営していただきました。

外部講師（声優体験・アナウンサー体験・音楽演奏）

プロとして活躍している講師の方が、子どもたちに、それぞれの仕事内容を指導してくれました。

麻生警察・麻生消防署（白バイ乗車体験・パトカー乗車体験・起震車乗車体験・消防車乗車体験）

各種乗り物の乗車体験の他、警察官・消防士の方との記念撮影や振込詐欺撲滅の啓蒙活動を行っていただきました。

協賛企業（株式会社シェアカンパニー・有限会社ティンパーテック・有限会社原田管理商会・JAセレス川崎・明治スポーツプラザ）

協賛金としての協力の他、地元でとれた野菜の提供・景品としてのお菓子の提供を受けています。

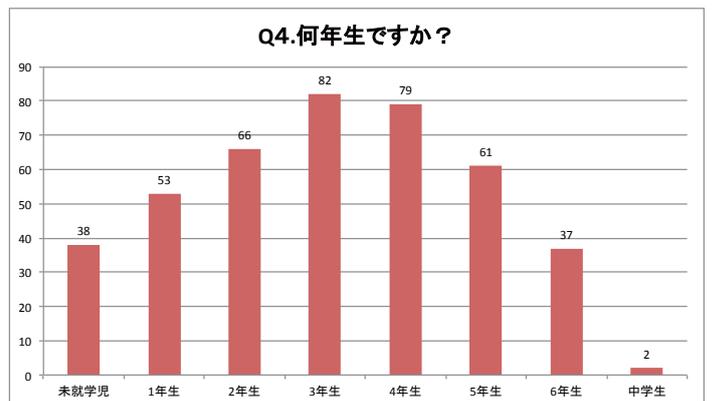
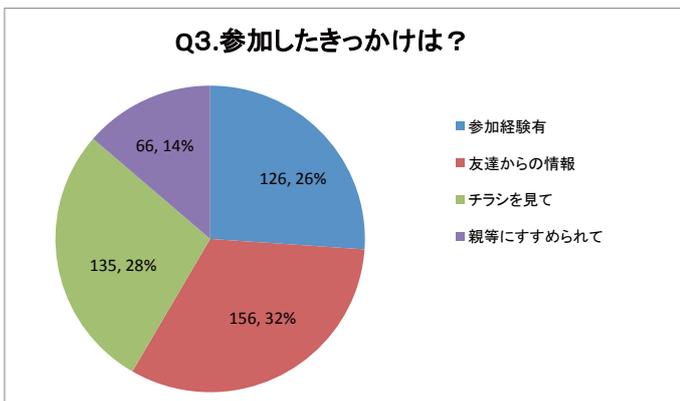
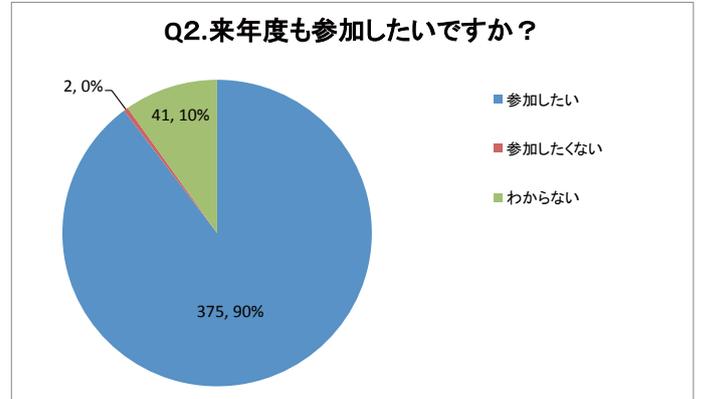
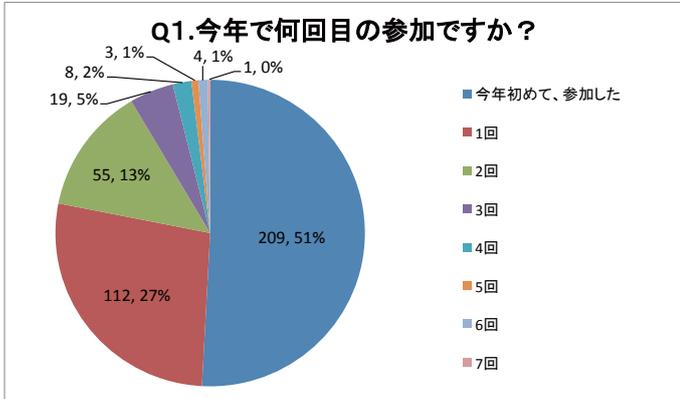
川崎市教育委員会

各小学校との連携等を中心にミニたまゆりの準備から当日の運営に至るまで、多大なるご支援ご協力を頂きました。

アンケート集計結果 子ども

子ども向けアンケートの集計結果です
アンケートの回収方法

アンケート用紙に記入した子どもに駄菓子を配布
場所：市役所
回答数：422



楽しかった仕事

1位	ネイルサロン (30)
2位	綿菓子 (24)
3位	迷路 (20)
4位	射的 (19)
5位	警察 (15)
6位	市役所 (14)
	プラバン (14)
	パン屋 (14)
10位	モグラたたき (13)
11位	税務署 (12)
	ヨーヨーつり (12)
	クレープ (12)

将来の夢

1位	ケーキ屋 (27)
2位	サッカー選手 (22)
3位	俳優・アイドル (19)
4位	保育士 (18)
5位	デザイナー (11)
6位	教師 (10)
7位	美容師・ネイリスト (10)
8位	看護師 (8)
9位	警察官 (8)
10位	ピアニスト (7)
	電車の運転手 (7)
	野球選手 (7)
	パイロット・CA (7)

各ジャンルで人気があった仕事

	1位	2位	3位		
食事	パン屋	うどん屋	フライドポテト	フランクフルト	
デザート	綿菓子	クレープ	フルーツポンチ	ポップコーン	
制作	プラバン	しおり	シュシュ	折り紙	紙すき
遊び	ネイルサロン	迷路	射的		
公共	警察	市役所	税務署		

その他の意見

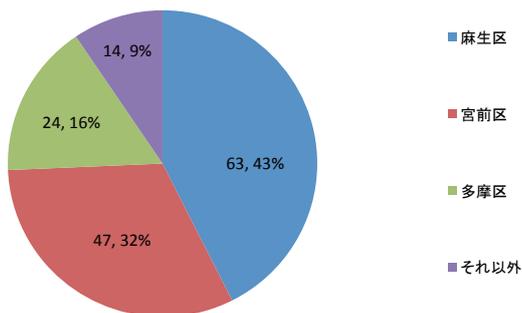
- ・すごく楽しかったです。
- ・来年も来たいのでこれからも続けてください。
- ・とっても楽しかった。また来たい!!
- ・ラーメン屋さんなど麺系のお店がほしいです。
- ・ミニたまゆりの会議に行って、いろんなことを教えてもらってうれしかったです。
- ・たくさんお店があって楽しかったです。
- ・いつも楽しいお店がいっぱいでうれしいです。
- ・おいしいものだらけで迷ってしまいました。
- ・また参加したいです。
- ・うどん屋さんがとても楽しかったです。またこれたら来たいです。
- ・何回来てても楽しいです。
- ・警察官のチラシ配りが楽しかった。
- ・他に仕事がほしいです。
- ・もっと遊びが増えてほしい。
- ・いろいろなことがわかる。
- ・とても楽しかったです。社会の仕組みなどがわかった。これからもミニたまゆりを続けてほしいと思います。
- ・今回、初めてで、昨日今日でいっぱい働いて、ユリーをかせいで、8ユリーもらってごはんを食べたり、遊んだりして楽しかったです。
- ・いっぱいお仕事があって良かった。
- ・大学生たちが優しかった。
- ・ブーメランをもらえてうれしかった。
- ・毎日やってほしい。
- ・これからもこのイベントを進んでやりたい。
- ・これからもこのイベントがあるなら行きたいと思います。楽しみにしています。
- ・ミニたまゆりは面白いからずっと続けてほしい。
- ・ミニたまゆりという気軽に参加できるイベントがあってとても良い!!中学生からも楽しめる仕組みがあったらもっとよくなると思う。
- ・ミニたまゆりサイコー!
- ・同じくらいの子がたくさんいて楽しめました。もっとお店を増やして、もっといろんな人に参加してほしい。
- ・楽しかったです。こうゆうお店があるだなあと思いました。
- ・私ははじめてだったけど、すごく楽しかった。
- ・今日来て良かったです。いっぱい働けてうれしかったです。ここが好きになりました。わかりやすかったです。また来たいです。楽しかったです。
- ・いろいろたのしかった。ぜったいやめないでほしい。
- ・食べ物がおいしかった。
- ・来年もよろしくお願いします。
- ・たまゆりLOVE!
- ・ネイルサロンでかわいいネイルができたのが良かった。
- ・とても楽しいです。また機会があれば、ミニたまゆりに来たいです。
- ・このようなことを考えて下さりありがとうございました!
- ・とてもいいと思います。これからも続けてほしい!
- ・ミニたまゆりがあってとてもうれしかった。

アンケート集計結果 大人

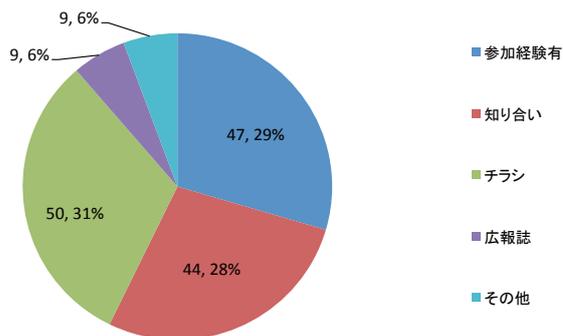
大人向けアンケートの集計結果です
アンケートの回収方法 食堂などでアンケート用紙を配布
回収場所：市役所

回答数：149

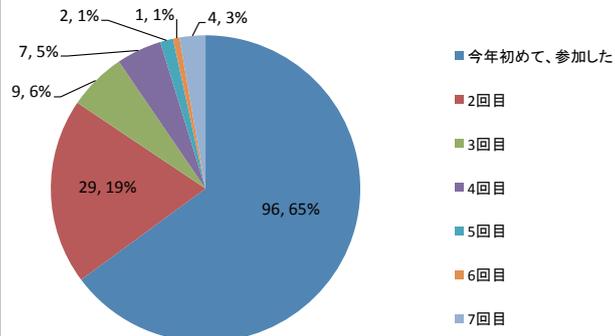
Q1.お住まいはどちらですか？



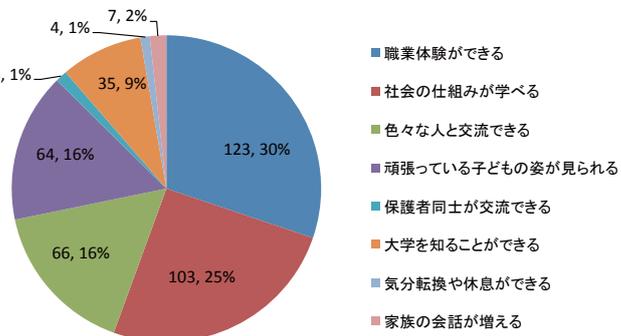
Q2.参加したきっかけは？



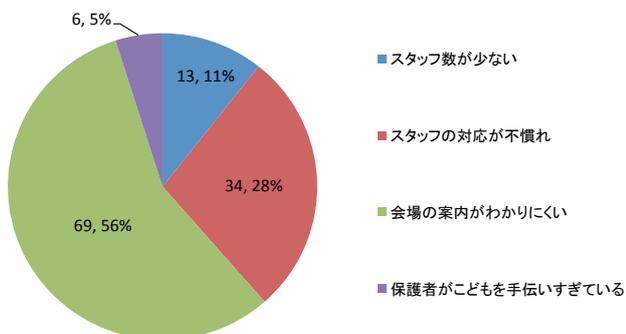
Q3.今年で何回目の参加ですか？



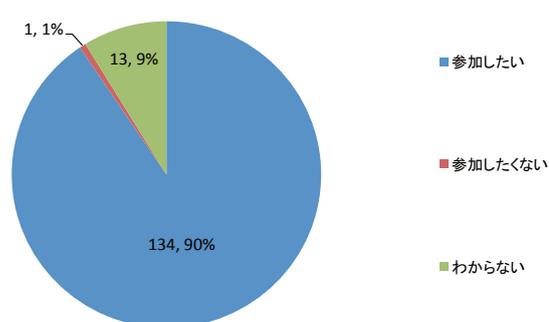
Q4.良かった点



Q5.改善点について



Q6.来年度も参加したいですか？



その他の意見

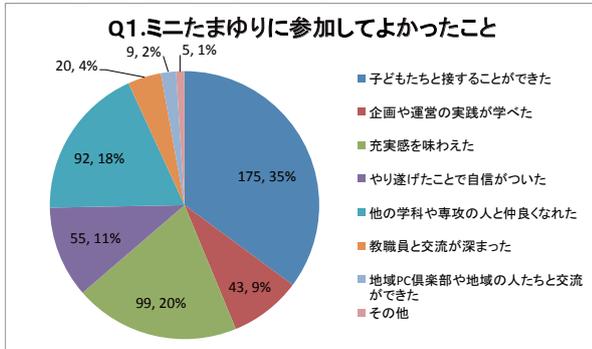
- ・昨年も2日間めいっぱい楽しめたが、今回も楽しかったようである。特に航空教室を楽しみに参加したが、思った以上素晴らしく子どもも大人も大満足。自分たちが住んでいる街でパイロットの方や、CAの方のお話が聞け、子どもの様子を見ることができ、貴重な体験であった。ただ、ANA整理券交換所において時間外は係りの方が不在であったので、案内表が必要であった。また、バザーも良い企画であった。学校関係者の方や学生の皆さん、スタッフの方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。
- ・4歳と6歳の子であったので、仕事を理解するのが困難であった。でも、ボランティアの方の対応が丁寧でとても良かった。保護者がそばにいとチラチラと見てしまい、集中できないと思う。もう少し大きくなったら、自分で色々体験させてもらえるのではと期待している。
- ・給料を得て、税金を支払って残りで楽しむという意味で社会の仕組みを垣間見たと思う。キッズニアと違って当日中にユリーを使い切るというシステムはとても良い。
- ・初めて参加した。ビデオでの説明はとてもわかりやすかった。子どもたちは、職案から納税までの一連の流れを知ることによって次々と繰り返し仕事をしていく。稼いだユリーでお昼も食べていた。とても良い取り組みであった。大学生が子どもたちと関わりを持つことはとても良いことである。
- ・税金の仕組みなどがあって良い。清掃の仕事などもやらないと町が汚くなるということが勉強になった。
- ・いつもお小遣いをもらっても特にありがたがることもなく消費する我が子。姉妹によって選ぶ仕事が違うのも興味深かった（一人は税務署・役所、一人はものづくり）。年齢の差もあるが、仕事の向き不向きあると思う。その仕事を通じて、稼ぐ⇒税金を支払う⇒お金を使うという流れがわかるイベントだと思う。
- ・働くことによってお金を稼ぐことや税金がかかること、様々な仕事があることなど、貴重な経験ができたと思う。是非来年も参加したい。
- ・仕事をして、お給料をもらい、税金を支払って、その自分で稼いだお金で何かを得る体験は子どもたちにとって貴重で充実感のあることだと思う。とても満たされた顔で自分で買った食べ物を食べていたのが印象的だった。
- ・働く⇒給料をもらう⇒納税する⇒手元に残った給料で楽しむという仕組みを家に帰って父親や他の兄弟に説明していた。最後に「働くって大変だけど、（お給料で食べる）ご飯は美味しいよ」と言っていた。参加して良かった。
- ・何かをしてお金をもらうことは大変だということが少しわかるし、納税ということにも触れることができていると思う。何か作ったりして売ること、体を動かしたり声を出したりする仕事、色々な事が集まって世の中が回っているという事を学べると思う。また、家に帰ってから子どもの声に耳を傾け、社会の仕組みの疑問点等を話し合うことでさらに今回の体験が役に立っていくと思う。
- ・企画・運営から学生さんたちと子どもたちの力の賜とのこと。本当に素晴らしい。ここまでの準備と実行力は十分お互いの力を引き出し合っていると思う。どうぞ続けていって下さることを期待している。できることなら職案を色分けするなどして列をわかりやすくしたほうが良い。そのほうがよりスムーズに動くのでは？ご検討ください。他の店舗・組織は素晴らしい！
- ・とても良い体験になった。私は家庭の仕事に対してお金を渡すというのは抵抗があり、していないので家庭外でこのような体験ができたことを嬉しく思う。また、一人で参加してもスタッフの方や他の参加者の方たちとすぐに親しくなって親から離れていける雰囲気もとても良いと思う。ありがとうございました。
- ・とても役に立った。特に税金を支払う行為ははじめ受け入れにくかったが、「そのお金はみんなのために使われる」ということを説明してあげたら納得していた。
- ・初めてだったので、仕組みがわかるまで迷っていたようですが、親は手・口を出さずにいたところ、親切な学生さんたちにたずねて、道案内していただき、軌道にのった。仕事も途中でアドバイスももらったのか大声で呼び込みをしていた。学生さんとの交流もほほえましいものだった。
- ・納税が納得いかないうえだったが、社会を知るのには良いことだと思う。半分は高い気がするが
- ・初めて参加した。子ども会議から参加したこともあり、とても楽しそうに生き生き仕事をしていく。自分で働いて得たユリーを自分で考えて使う。現金を使うのは抵抗があるが、ユリーなので安心して子どもに任せることができた。子離れのいい機会になると思う。
- ・航空教室など、大人が参加してもとてもためになるコーナーがあり、楽しく過ごせることができた。スタッフの方、ボランティアの方、大学さん、素晴らしい企画をありがとうございました。益々のご発展をご祈念申し上げます。
- ・子どもが仕事をしていくところのお兄さん・お姉さんたちの指導がとても良かった。30分頑張って働いても少しの食べ物や遊びですぐ使ってしまうのは厳しい現実のように感じました。
- ・毎年楽しみにしている。年々良くなっていて、来年も楽しみ。職安の表を教室ごとに色分けすると良い。（4人同じ仕事でなく、同じ教室の仕事にしたほうが職安の窓口がスムーズになると思う）ミニたまゆりの市民登録カードや声優の台本など読みやすいフォントでフリガナをふってほしい。5歳以下がNGなら全員を統一してNGにしてほしい（もしくは全員OK）。使いきれなかったユリーを募金として回収してほしい。
- ・学生の皆さんがとても親切で笑顔が素敵。授業を受けながら「ミニたまゆり」の企画・準備をし、これだけのイベントを行い、片付けとっても大変だと思う。お陰で子どもたちはとても良い2日間を過ごせた。自分も子どもになって参加できたら、どんなに楽しいだろうと思うほど、魅力的なミニたまゆりを来年も楽しみにしている。様々な問題があると思うが、気になったので... ひとつは子ども会議でもっと子どもたちに色々やらせてもいいのではと思った。参加した時がたまたまそうだったのかもしれないが、遊ぶだけであった。町づくりに関わった実感がないように感じた。もう一つは、下に兄弟がいる我が家のわがままでもあるが、小さな子（仕事ができない子）が遊べる場があると助かる。例えば、保育園を作って、保育士の仕事を作ってもらえると嬉しい。それから対象年齢をなのですが、出来ない仕事があって良いので4歳（できれば3歳も）にさせていただくと最高。最後にやりたい仕事が多すぎて出来ない（カードがない）のが少し気になった。エコバサーはとても良かったと思う。ありがとうございました！

アンケート集計結果 学生

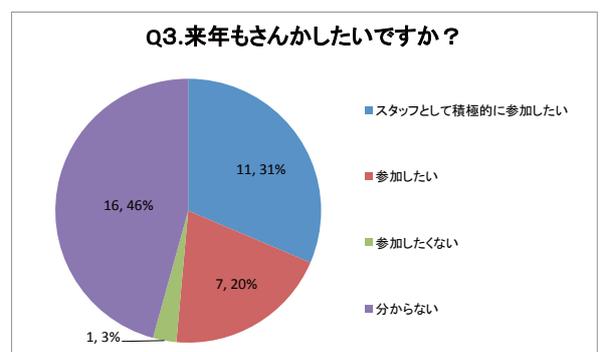
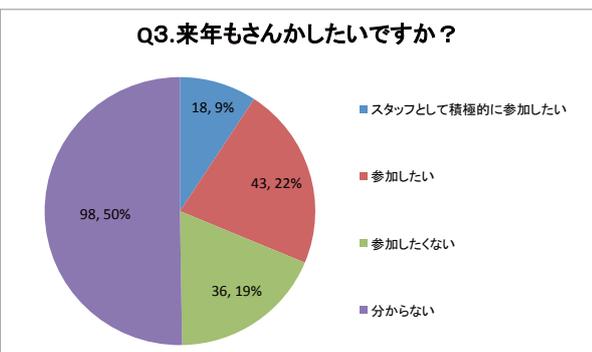
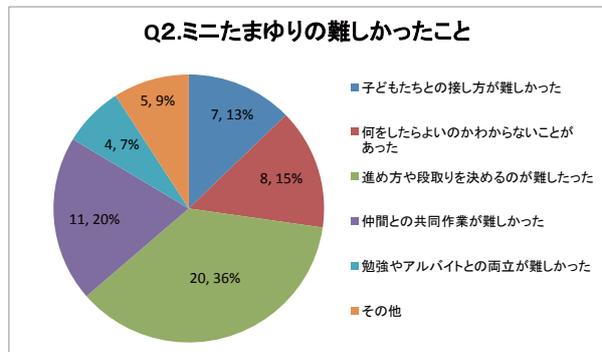
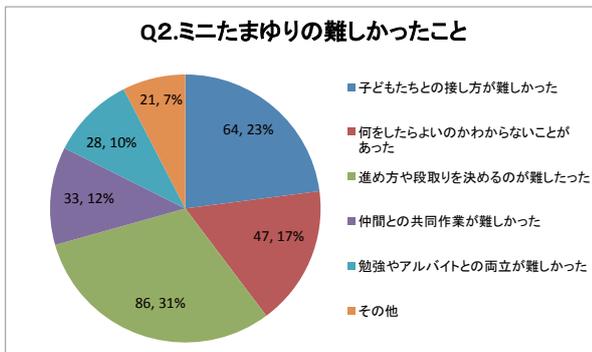
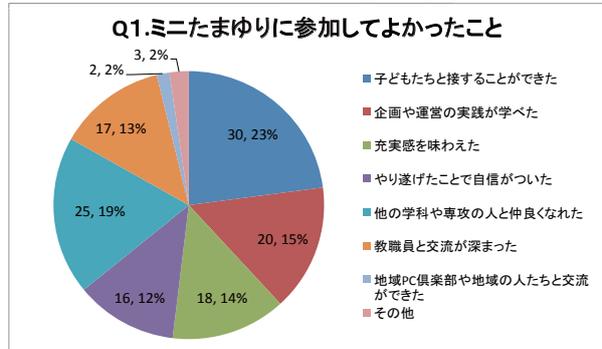
ミニたまゆりに参加したボランティア学生のアンケート結果です
アンケートの回収方法
イベント終了時の出席確認としてアンケートを提出

回答数：197

全学生対象 (197)



コアスタッフ対象 (37)



ミニたまゆりで工夫した事・気をつけた事

模擬裁判で感情を入れ、また、レッドとなり、イベントに参加又は構内を歩くなどをした・アンケートの配布と気配り・ツイッターで落し物情報を流し、画像などもつけ、わかりやすくした・子どもとのコミュニケーション・ご飯そのままの販売でなく、先生のアドバイスでおにぎりに変更した・経験した子が他の子に教えたりするのも良かった・子どもが道の真ん中で溜まってしまっている時の対応など・子どもたちが怪我をしないように、危険な仕事は行うようにした子どもがたくさん来た時は役割分担をした・1日目の経験を生かし、効率的にできた・できるだけ、仕事を子どもに任せ、できないところをサポートするようにした・子どもが勝手に遊んだり、お金を持ち出したりしないようにした・時間調整をし、全ての子どもが様々な役割ができるようにした呼び込みはみんなで協力して頑張った・食べやすいようにおにぎりにして販売した・詳細情報をツイッターに書き込んだ・役割分担・各担当の子どもたちの対応・丁寧な指導・子供たちの仕事がないように工夫した・改善点を見つけ、良くなるようにした・子どもが多く来て大変だったが、他の仕事もできて良かった・子どもたちが怪我をしないように注意をしながら、教えた・子

どもたちが均等に仕事ができるよう工夫した・子どもたちの仕事の取り決めと職案へのカード返却方法・クレープが最後まで完売できず、苦労したが、完売できるよう頑張った・小さい子の面倒を見ていた・ものの貸し借り等の声をたくさんかけて子どもが待たないようにした・子どもたちがパズルを楽しく作れるように話しかけたり、道具を持ってきたりした・多くの人が税務署で様々な仕事ができるように頑張った・募集中の仕事がすぐにわかるように模造紙を工夫して、きれいに並べるように列を整えた・整列・整備の工夫・ダンボールアートが倒れないようにすること・お店の回転をよくし、ミスを減らすように努力した衛生面では、マスク・エプロン・手袋の装着は徹底した・反省をいかし、先読みして行動した・準備、ピンゴ、宝くじ・子どもたちが楽しく仕事ができるように促した・子どもたちと話し合って行動した・いろんなところからものを借りて不足品を補ったり臨機応変に対応・在庫の確認不足でトースター1台しか使っていなかったの、2台使用するようにした・子どもの主体性を大事にし、少しだけサポートをした・書き方がわからない子に対しての教え方・均等な仕事配分・お客様の邪魔にならないよう会場整備を行なったまた、子供たちの役割を取らないように頑張った・子どもがたくさん来た時の役割分担を工夫した小さいお子さんが来た時は、軽作業をさせるようにした・仕事をスムーズにこなせるように常に気配りができたさわりやすく作り方を説明することができた・役割分担・列の整理・丁寧に説明した・臨機応変な対応・みんな平等に材料が行き渡るように・タイムセールをしたら、子どもがたくさんきた・携帯での連絡を密に・ヨーヨーがとりやすいようにわか部分の大きしたり、とった後もコミュニケーションをとるようにした・ダメなものはだめと言えた・言葉遣いに気をつけたわかりやすいよう自分も作業をしながら教えた・子ども目線になってフォローした積極的な子どもに話しかけるなどコミュニケーションを取るよう努力した・子どもたちに最も得意なものを折ってもらい、高い完成度を求めた・食堂だったので働きに来た子どもたちにエプロンやバンダナなどの支度の手伝いをした・できるだけ子ども目線で話した・年齢相応の内容にして対応したこと一度にたくさんの子に目を向けて、出来ない子にはすぐに対応できるようにした・子どもたちにわかりやすいようにマニュアルを説明した困っていたら積極的にアドバイスするように頑張った・読めない子の横で一緒に読んだりした・子どもたちが主体的に仕事をしてもらえるように工夫した・作業をやっている子どもを少しでも待たせないように色々工夫した・ハンマーを振り回したりしてしまうのを注意したり、危なくないようにした・指導のし方を変えたり、人が来ないときは子どもたちと会話を楽しんだだめなところだめと怒った・子どもとのコミュニケーション、出来るだけできることは任せ、かつフォローできるように気をつけた・子供たちの話を聞きながら楽しく取り組んだ・積極的にコミュニケーションをとった・市民登録がスムーズに流れるよう物品を準備した不足しているもの、準備不足がないよう周りに気を配った休憩時間にも他の場所を手伝った・告知して周り、仕事を希望する人に遊んでもらった・掃除の場所を的確に指示した・人数に応じて役割分担を行なった・子どもたちに接することを工夫・机の並び替え、表の書き換え・バザーの列をそろえる、分担して会計を行なった・みんなが綿菓子ができるようにローテーションした・列の誘導・声かけ・解凍するのを頑張った・声かけ・人の誘導を工夫・教えるのを頑張った・準備を前に始め、作業が滞らないようにした・子どもに仕事の楽しさを教えること・時間を設定し、講師の方の休憩をしてもらった・時間を意識して正確に行動した・入ってきやすいように手話の練習をした雰囲気をよくした・袋が開けやすいように切込をいれたストックをつくった・人数調整、タイムテーブルを作った・皿がなくなったら別のもので対応した・職案のならばの変更、呼びかけ・他の学生と協力して頑張った・子どもに興味を持ってもらうために実演した・見回りして各ブースのトラブル対応、危険な場所に立ち入り禁止テープを貼った・教え方を工夫した・みんなが楽しめるように素早く行動した・整列の仕事を作った働く人が増えたとき、仕事がなくならないようにした・教えすぎないこと、理由を付けて説明するようにした・消極的な子が輪に入れるように声かけをした一人の子にいろんな役割ができるようにした・子どもが、分担したり、宣伝したり、自分たちでよく考えてやっていたので良かった・役割分担・保護者からのお礼が嬉しかった・反省を踏まえ内容の変更、人数調整・子どもにわかりやすく伝えることを心がけた・模擬裁判ではハキハキ話すように心がけた市民登録・シュッシュは交流を大切にしたい・模擬裁判は感情豊かにメリハリをつけた、声優は子供と仲良くなるために努力した・子どもにしてもらうように促した・子どもの要望にできるだけ答えるようにしたちゃんと子供の話を聞いて、仕事がない子がいないようにした人の足りないところに行って、手伝うようにした・説明を工夫した・反省をいかして、清掃局の場所を宣伝した・子どもにどう接するか考え、子ども目線で話すようにした・子どもと世間話をするなど、コミュニケーションを心がけた・子ども目線で話したり、子どもが困っていたら声かけを行なった・子どもがみんな綿菓子ができるように順番を工夫した・販売の基本を子どもたちに教えた子供の仕事を確認した・豚汁は後半よく売れたので、子どもが大人ユリーを使ってないか、ユリーのもらい忘れがないかよく見た・作業がスムーズに流れるようにした子ども目線で話したり、教えたりした・改善、作るスペースを広くした、役割分担・反省を生かし、効率的にできるように工夫子どもたちに積極的に話しかけたり、平等に仕事ができるようにした・時間帯を区切って時間調整をした・学生との連携・子どもたちが楽しめるようにした全体把握、人数配置も工夫・みんなができるよう回数を決める破れやすいので巻き方を工夫・お菓子の配り方・模擬裁判は証人としてしっかり発言できたボウリングは子どもたちの補助として、サポートすることができた・時間を決めるなどして仕事を調整した・スムーズに提供できるように頑張った子どもに楽しんでもらえるように努力した・お菓子を見えやすく、わかりやすくした・担当が自分一人だったので頑張った・先にあたためておいたので、混んでも大丈夫だった・全ての子どもがフルーツポンチをよそう仕事ができるようにした・衛生面に気をつけたユリーのチェックも行なった・仕事内容の説明を工夫実演もして説明した・子どもたちのペースで工作をすすめるようにした人見知りの子供が来たときは、対応を工夫した・子どもたちが自分で考えられるようにする・うどんを作りおき、袋に切れ目などで時間短縮子供が多くの仕事ができるように声かけをし、仕事を交代するようにした・着ぐるみに入って、子どもたちと仲良く出来た工作の簡単なやり方など教えたりした

福祉マインド実践講座とは

田園調布学園大学 人間福祉学部では、1年生の「福祉マインド実践講座」という授業があり、社会福祉を学ぶ学生に対して、実践的な「福祉マインド」を醸成するための導入教育として位置づけられています。また、様々な形態による社会貢献活動への参加を通じて、「地域に深く根ざした大学」に通う学生としての自覚と責任感を持ち、さらに「他者との連携」や「我欲・利己を捨てて奉仕する心」という福祉を学ぶ者としての資質を早期に身につけることがねらいに置かれています。具体的には「ミニたまゆり」「赤い羽根募金」「あさお福祉まつり」「地域の学校への教育ボランティア」等の地域の様々な施設や活動に出かけ、実習を行います。授業のなかで「ミニたまゆり」を紹介し、中心的な役割を果たすスタッフを募集しました。そこで集まった意欲の高い学生たちを中心として、事前の「子ども会議」を開催したり、本番に向けた準備をしてきました。

ミニたまは、当日になって準備不足に気づいてあたふたしたり、臨機応変に対応しなければならないことも多く、毎年大変です。しかし、完成された仕事をこなすのではなく、「失敗」を繰り返すなかで様々なことに「気づき」、教員に言われたからではなく、自ら進んでミニたま（子どもたち）のために課題を解決していくプロセスを通して、普通の授業では得られない「ひとのために何かをすすんですること」の意味を学生たちは学びます。最初は言われたことしかやらなかった学生が、やがて「来年度はこうしよう」と変化していく姿を見るのはとても面白いものです。

地域貢献としてだけでなく、将来、福祉や教育等の現場で人を援助する際に役に立つ様々な力を、学生が身につけられる企画になるように、ミニたまゆりを改善していきたいと思えます。



福祉マインド実践講座のスケジュール

- 4月21日 第1回 オリエンテーション（授業の仕組みについて）
- 4月28日 第2回 ボランティアの心構え、大学の地域貢献について
- 5月19日 第3回 教員・学生などのボランティア体験記、プチ福祉マインド演習
- 5月26日 第4回 ボランティア活動に向けて - 障害を理解する -
- 6月30日 第5回 学生アンケート、ミニたまゆりについて（1）
- 7月14日 第6回 福祉マインド養成講義（1） ボランティア活動者の講演
- 7月21日 第7回 赤い羽根共同募金について（1）・その他
- 7月28日 第8回 ミニたまゆり（2）、夏期ボランティアについて、後期授業について
- 9月29日 第9回 赤い羽根共同募金について（2）、その他
- 10月27日 第10回 学生向け講座（たばこについて）、赤い羽根共同募金活動報告会
- 12月8日 第11回 福祉マインド養成講義（2） 福祉活動者の講演
- 1月5日 第12回 ミニたまゆりについて（3）
- 1月26日 第13回 ミニたまゆりについて（4）、ミニミニたまゆりの見学

地域交流センターとは



地域交流センター（以下「センター」）は、ボランティアの紹介・相談や外部団体との連携などを行うセクションとして2009年4月に開設いたしました。

本学では、建学の精神「捨我精進」に基づき、まず人としての優しさや思いやりの心をはぐくみ、考える力を伸ばし、地域社会、国際社会に積極的に貢献していくことを基本理念としています。センターは上記の理念に基づき、学生スタッフや福祉系サークル等に協力を得ながら、運営を行っています。



ミニたまゆりにおけるセンターの役割

センターは、開室時からミニたまゆりの事務局となり、運営全般を実行委員と協力しながら行っています。特に、センターが中心に行っているのが、ボランティアのコーディネートと物品管理です。ミニたまゆりでは、多くの学生や地域の方々がボランティアとして参加しています。4年前から「福祉マインド実践講座」が開講され、1年生全員がボランティアとして参加しているので、250名ほどのボランティアが動いていることになり、その調整は必要不可欠です。また、ミニたまゆりは3,300名以上の方々にご来場いただいているので、多くの物品が必要であり、その管理と調整も必要不可欠です。センター開設以前は、ミニたまゆりの担当になった教員が全ての実務と管理を行っていましたが、センターが管理を担うことで、業務分担ができ、スムーズな運営を行えるようになりました。

第8回子どもがっくる町
三才まつり2013

 田園調布学園大学

〒215-8542 川崎市麻生区東百合丘3-4-1

TEL 044-966-2780

E-MAIL : c-center@dcu.ac.jp

<http://minitama.jp/>